中学校英語教科書に見る音声指導の扱われ方

加藤　みち子

はじめに

本稿では現在岩手県内の国公立中学校で使用されている教科書 *NEW HORIZON English Course*(2006 東京書籍)の 1 年生から 3 年生用を使用して教科書の上での発音指導の扱われ方について現状把握を行うことを目的とする。

1.中学校学習指導要領における発音指導の位置づけ

文部科学省で定める中学校学習指導要領（平成 10 年 12 月告示、15 年 12 月一部改正）の第 2 章各教科、第 9 節外国語、第 2 各言語の目標及び内容等で以下のように目標を提示し、続けて内容、言語材料を述べている。本稿では中学校英語教科書に見る音声指導についてみて行くことを目的とするため、「話すこと」のみに焦点を当て、以下に指導要領から抜粋したものを記した。

ボックス 1

1　目標
（中略）
(2) 英語で話すことに慣れ親しみ，初歩的な英語を用いて自分の考えなど話すことができるようにする。
（中略）
2 内容
(1)　言語活動
英語を理解し，英語で表現する能力を養うため，次の言語活動を 3 学年間を通して行わせる。
（中略）
イ 話すこと
主として次の事項について指導する。
(ア) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ，正しく発音すること。
(イ) 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと。
(ウ) 聞いたり読んだりしたことについて，問答したり意見を述べ合ったりすること。

(エ) つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が続くように話すこと。
（中略）
(3) 言語材料
(1)の言語活動は，以下に示す言語材料のうちから，1の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。
ア 音声
(ア) 現代の標準的な発音
(イ) 語と語の連結による音変化
(ウ) 語，句，文における基本的な強勢
(エ) 文における基本的なイントネーション
(オ) 文における基本的な区切り

ここでは、英語の音声的特徴を学習し、実際の会話の場面で運用するために様々な目標が掲げられている。

2.教科書における音声指導の順序・分野の分析

2.0 はじめに

ここでは今現在、教科書の中でどのように音声事項が扱われているのか、分野・順序の視点から見ていくことにする。教科書の中で記されている音声指導内容については1年生から3年生分全てを付録に掲載した。この章では1年生で扱われている音声指導内容を分析していく。

2.1 *NEW HORIZON English Course*(2006 東京書籍)における発音指導の位置づけ

NEW HORIZON English Course(2006 東京書籍。以下、教科書)では各学年共通して、教科書のページ下に付属的に特に注意すべき発音が取り上げられている。その際に、なんらかの形で2つの種類の対を作って載せられている。それらの対については2.2以降で1年生の実例を用いて分析を進めていく。

2.2 順番

2.2.0 はじめに

ここでは、1年生の教科書の中で実際に用いられている音声指導内容をもとに、どのような順番で音声指導が進められていくのかを見ていくことにする。

2.2.1 実例

教科書に記載されている発音事項についてまず、学年別に抜き出し、音声学的な観点からどのような事項で対を作っているかを見ていった。ボックス2は1年生の教科書で扱われている音声事項を一覧表にしたものである。これをもとに、2.2.1.1 以降でどのような基準で対が作られているのかを一つ一つ見ていくことにする。

ボックス2

NEW HORISON 中1

	Unit2					
1	big, it	[i]	meet, Green	[i:]		
2	school, too	[u :]	good	[u]		
3	six, is	[i]	ten	[e]		
	Unit3					
4	have, Ann	[æ]	not, want	[ɑ]		
	Unit4					
5	very, have	[v]	but	[b]		
6	how, now	[au]	know	[ou]		
7	thank, thirteen	[θ]	this, that	[ð]		
	Unit5					
8	go, no	[ou]	do	[u :]		
9	right, rice	[r]	like, large	[l]		
	Unit6					
10	sister	[si]	see	[si :]	she	[ʃi :]
	Unit7					
11	who	[h]	what, which	[ʍ]		

12	each, read	[i :]	weather	[e]		
	Unit8					
13	cap, cat	[æ]	under, lunch	[ʌ]		
14	mine, nice	[ai]	minute	[i]		
	Unit9					
15	snow, know	[ou]	walk, talk	[ɔ :]		
16	look, cook	[u]	afternoon	[u :]		
17	fast, five	[f]	very, move	[v]		
	Unit10					
18	can	[n]	jam	[m]	long	[ŋ]
19	those, phone	[ou]	whose	[u :]		
20	first, fird	[ə : r]	car, park	[ɑ : r]		
	Unit11					
21	dear	[iər]	chair	[eər]		
22	got, lot	[ɑ]	come, month	[ʌ]		

以下、説明を進めていく中でボックス 2 の表の左側を列(ア)とし、また、右側を列(イ)とする。例外としてボックス 2 の 10 と 18 では 3 つの例が取り上げられているため最後の例を(ウ)とする。また、本稿では音声の違いを表すために調音点、調音様式といった用語を用いることとする。調音点とは発音時の舌の位置を表し、調音様式とは発音時の調音方法のことである。これらの違いは IPA に従い、分析を進めている。

2.2.1.1 1. big, it [i] meet, Green [i:]

1(ア)は狭舌･前舌の短母音、1(イ)は狭舌･前舌の長母音であり、短母音と長母音の違いについて対にしている。

2.2.1.2 2. school, too [u:] good [u]

2(ア)は狭舌･後舌の長母音、2(イ)は狭舌･後舌の短母音であり、長母音と短母音の違いについて対にしている。

2.2.1.3 3. six, is [i] ten [e]

3(ア)は狭舌･前舌の短母音、3(イ)は狭･中舌･前舌であり、舌の位置の違いについて対にしている。

2.2.1.4 4.have, Ann [æ] not, want [ɑ]

4(ア)は広舌･前舌の短母音、4(イ)は広舌･後舌の短母音であり、調音点の違いについて対にしている。

2.2.1.5 5.very, have [v] but [b]

5(ア)は有声･唇歯･摩擦音、5(イ)は有声･両唇･破裂音であり、つづりが同じで発音が異なるものを対にしている。

2.2.1.6 6.how, now [au] know [ou]

6(ア)(イ)の両方とも二重母音であり、つづりが同じで発音がことなるものを対にしている。

2.2.1.7 7.thank, thirteen [θ] this, that [ð]

7(ア)は無声･歯･摩擦音、7(イ)は有声･歯･摩擦音であり、有声音と無声音の違いについて対にしている。

2.2.1.8 8.go,no [ou] do [u：]

8(ア)は二重母音であり、8(イ)は狭舌･後舌の長母音であり、二重母音と短母音の違いについて対にしている。

2.2.1.9 9.right, rice [r] like, large [l]

9(ア)は有声･歯茎･接近音、9(イ)は有声･歯茎･側面接近音であり、調音様式の違いについて対にしている。

2.2.1.10 10.sister [si] see [si：] she [ʃi：]

10 については日本語の「シ」の発音にあたるものの 3 つの違いを対にしている。

2.2.1.11 11.who [h] what, which [hw]

11(ア)は有声・歯茎・摩擦音、11(イ)は無声・声門・摩擦音+有声唇・軟口蓋接近音であり、つづりが同じで発音がことなるものを対にしている。

2.2.1.12 12.each,read [i：] weather [e]

12(ア)は狭舌・前舌の長母音、3(イ)は狭・中舌・前舌であり、つづりが同じで発音がことなるものを対にしている。

2.2.1.13 13.cap, cat [æ] under, lunch [ʌ]

13(ア)は広舌・前舌の短母音、13(イ)は広舌・後舌の短母音であり、調音点の違いについて対にしている。

2.2.1.14 14.mine, nice [ai] minute [i]

14(ア)は二重母音、14(イ)は狭・前舌の短母音であり、二重母音と短母音の違いについて対にしている。

2.2.1.15 15.snow, know [ou] walk, talk [ɔ：]

15(ア)は二重母音、15(イ)は広舌・後舌の長母音であり、二重母音と長母音の違いについて対にしている。

2.2.1.16 16.look,cook [u] afternoon [u：]

16(ア)は狭舌・後舌の短母音、16(イ)は狭舌・後舌の長母音であり、短母音と長母音の違いについて対にしている。

2.2.1.17 17.fast, five [f] very, move [v]

17(ア)は無声・唇歯・摩擦音、17(イ)は有声・唇歯・摩擦音であり、有声音と無声音の違いについて対にしている。

2.2.1.18 18.can [n] jam [m] long [ŋ]

18(ア)は有声・歯茎・鼻音、18(イ)は有声・両唇・鼻音、18(ウ)は有声・軟口蓋・鼻音であり、調音点の違いについて対にしている。

2.2.1.19　19.those, phone　[ou]　whose　[u：]

19(ア)は二重母音であり、19(イ)は狭舌･後舌の短母音であり、二重母音と短母音の違いについて対にしている。

2.2.1.20　20.first, fired　[ə：r]　car, park　[ɑ：r]

20 では r を含む二重母音の違いについてみている。それぞれの長母音は 20(ア)が中舌の長母音、20(イ)が広舌･後舌の長母音であり、調音様式、調音点の 2 点の違いの対にしている。

2.2.1.21　21.dear　[iər]　chair　[ear]

21 では r を含む二重母音の違いについて対にしている。

2.2.1.22　22.got, lot　[ɑ]　come, month　[ʌ]

22(ア)は広舌･後舌の短母音、22(イ)は広･中舌･後舌の短母音であり、調音様式の違いについて対にしている。

2.2.2　結果

ここでは 2.2.1 で行った 1 年生の例の分析をもとに教科書で扱われる際の順番についての結果をまとめることとする。2.2.1 で記した音声指導内容は以下のボックス 3 のような順番で取り上げられている。

ボックス 3

1.	母音：長母音と短母音の違い
2.	母音：調音様式の違い
3.	母音：調音点の違い
4.	子音：つづりが同じで発音が異なる
5.	子音：無声音、有声音の違い
6.	母音：つづりが同じで発音が異なる
7.	母音：二重母音と長母音の違い
8.	子音：調音様式の違い
9.	子音：調音点の違い

更にこれを母音と子音別に分けるとボックス 4 のようになる。

ボックス 4

母音	子音
1. 長母音と短母音の違い 2. 調音様式の違い 3. 調音点の違い 4. つづりが同じで発音が異なる 5. 二重母音と長母音の違い	1. つづりが同じで発音が異なる 2. 無声音、有声音の違い 3. 調音様式の違い 4. 調音点の違い

2.3 分析

2.3.1 分析方法

2.2 で分析を行った 1 年生の例を用いてここでは分野についての分析を進めていく。分析方法としては対になっている対象の基準についてどのような事象が扱われているかを更に細かくまとめていくことにする。

2.3.2 結果

以下のボックス 5 では 2.2.1 で取り上げた実例の中でどのような事象について取り上げられているかを更に細かくまとめたものである。ボックス 5 は左から母音・子音の違い、各対の内容、実例と順に並べてある。

ボックス 5

1 年生		実例
母音の違い	短･長母音	(i⇔iː) (u⇔uː)
	調音様式	狭舌⇔狭･中舌(i⇔e)
	調音点	前舌⇔後舌(ɑ⇔æ)
	二重・長母音	(ou⇔uː)
	綴りが同じ・発音が異なる	(e⇔iː) (ɑi⇔i) (ɑ⇔ʌ)
子音の違い	調音様式	破裂音⇔摩擦音(v⇔b) 顫動音⇔側面接近音(r⇔l)
	調音点	両唇音⇔歯茎音(v⇔b) 両唇音⇔歯茎音⇔軟口蓋音 (n⇔m⇔ŋ)

	有声・無声	歯音(θ, δ)
	綴りが同じ・発音が異なる	wh(h⇔hw)

以下、3 章では 2 章で行った 1 年生の分析同様に 2,3 年生の教科書を分析した結果を記し、まとめていく。

3.まとめと考察

3.1 3 学年を通した分析結果

3.1.1 順番

ここでは、2 章で行った分析を 2,3 年生の全ての学年分を分析した結果をまとめ、更に図表化したものを記した。以下のボックス 6,7 では母音と子音の区別と学年の区別したものを図表化したものを記してある。ボックス 6,7 では縦軸は学年を表し、横軸は分類内容を表している。横軸と縦軸の交差した欄に記されている数字は教科書に出てくる順番を表している。空欄はその学年では取り扱われていないことを表す。ただし、ここで記す順番とは 3 年間通したものではなく、学年別の順番である。

ボックス 6

母音	1 年生	2 年生	3 年生
調音様式	2	4	
調音点	3		2
二重・長母音	4	2	1
二重・短母音		1	
長・短母音	1	3	3
綴りが同じ、発音が異なる	5		

ボックス 7

子音	1 年生	2 年生	3 年生
調音様式	1		2
調音点	2	1	1
有声・無声	3		3
綴りが同じ、発音が異なる	4		

3.1.2 分野

ボックス8から10では3.1.1と同様に3年分の内容について分野別にまとめたものを記した。ボックス8から10では3年間を通して取り上げた実例の中でどのような事象について取り上げられているかを更に細かくまとめたものである。ボックス8から10は左から母音・子音の違い、各対の内容、実例と順に並べてある。

ボックス8

1年生		
母音の違い	短･長母音	(i⇔iː) (u⇔uː)
	調音様式	狭舌⇔狭･中舌(i⇔e)
	調音点	前舌⇔後舌(ɑ⇔æ)
	二重・長母音	(ou⇔uː)
	綴りが同じ・発音が異なる	(e⇔iː) (ɑi⇔i) (ɑ⇔ʌ)
子音の違い	調音様式	破裂音⇔摩擦音(v⇔b) 顫動音⇔側面接近音(r⇔l)
	調音点	両唇音⇔歯茎音(v⇔b) 両唇音⇔歯茎音⇔軟口蓋音(n⇔m⇔ŋ)
	有声・無声	歯音(θ, ð)
	綴りが同じ・発音が異なる	wh(h⇔*h*w)

ボックス9

2年生		
母音の違い	二重・短母音	ei⇔æ ei⇔e au⇔a ou⇔ʌ
	二重・長母音	ou⇔ɔ：
	長・短母音	iː⇔i
	調音様式	狭舌⇔狭･中舌(i⇔e) 狭･中舌⇔広･中舌(e⇔æ)

子音の違い	調音点	歯茎音⇔軟口蓋音(n⇔ŋ) 唇歯音⇔声門音(f⇔h) 歯音⇔歯茎音(θ⇔s) 接近音⇔側面接近音(r⇔l)
例外	長母音+r 軟口蓋鼻音+g	(eːr⇔ɑːr) (ŋ⇔ŋg)

ボックス 10

3 年生		
母音の違い	二重・長母音	ou⇔ɔ ː ei⇔iː
	調音点	前⇔後舌(æ⇔ʌ) 広⇔狭舌(ʌ⇔u)
	長・短母音	iː⇔i
	調音様式	円唇⇔非円唇(ʌ⇔u)
子音の違い	調音点	歯茎音⇔軟口蓋音(s⇔k)
	調音様式	破裂音⇔摩擦音(s⇔k)
	有声・無声	歯茎音(s⇔z) 破裂音(t⇔d)
例外	長母音+r 摩擦音 s, ʃ+長母音 i	(eːr⇔ɔ ːr) (siː⇔ʃiː)

3.2 考察

3.2.1 指導内容から見られること

3.2.1.1 母音と子音の割合

3.1 でどのような音声現象が対になって教科書に取り上げられているかを母音と子音別に記した。ボックス 8,9,10 を見ても分かるように母音の発音が取り上げられている割合は子音に比べて多くなっている。付録にある教科書の中で実際に取り上げられている発音指導内容を母音と子音別に分けた場合、母音が占める割合は各学年で以下のボックス 10 ようになる。

ボックス 11

1年	59%	(全体 22 個中、母音 13 個)
2年	57%	(全体 28 個中、母音 16 個)
3年	50%	(全体 20 個中、母音 10 個)
全体平均	約 55%	(全体 70 個中、母音 39 個)

ボックス 11 からも分かるように 3 年間の発音指導の中で扱われる内容の多くは母音が占めていることになる。また、英語を学習し始める 1 年生では特に多くの母音に関わる発音を学習していることが分かる。子音に比べ、母音は英語を聞く際、話す際に大きな役割を果たしている。そのため、教科書では母音に重点を当てて、単語を選んでいるのだと考えられる。

3.2.1.2 母音の長さの違い

3.2.1.1 で教科書では子音よりも母音のほうが多く扱われていることを述べた。さらにボックス 8,9,10 で母音についてのみ見ていくと母音の中でも長さについての事項が多く扱われていることが分かる。英語の母音の中で扱われる長さとは以下の 3 つがあげられる。

・短母音
・長母音
・二重母音

特にも短母音と長母音の差については 3 学年を通して必ず、取り扱われている内容である。3.2.1.1 であげた子音よりも母音の取り扱いが多いことと更にその中でも母音の長さについての取り扱いが多いことについては日本語と英語の母音の違いが大きく関係していると考えられる。耳で聞いただけのでは日本語母語話者に同じ発音に聞こえるものが英語母語話者にはまったく異なるものに聞こえることがある。英語では長さの違いが意味の違いに大きく関係してくる。また、綴りと発音との比較についてもいくつか取り上げられており、視覚と聴覚の両方を用いて判断をできるようにと指導内容が組まれているように考えられる。

3.2.1.3 子音の扱われ方

3.2.1.1,3.2.1.2 と母音について多く述べたが、教科書の中で子音について重要視されていないわけではない。子音については取り扱われている事項は少ないが、

その中で焦点が当てられているものは限られている。ボックス7からも分かるように3年間を通して子音の発音指導で扱われるのは調音点の違いである。3.2.1.2で述べた「日本語と英語の違い」が大きく関係している点は同様のことと考えられる。日本語と英語では異なる発音方法がとられることが多くある。調音点に関してはそれらの違いが顕著に現れると考えられる。それに加え、様式の違いが加わると日本語母語話者はそれらの違いを判断することが難しい。そのために、まず、典型的な例を用いて調音点の違いに多く焦点を当てて教科書では取っている。

終わりに

一言で発音と言ってもその中には様々な場合わけが存在する。その全てを中学校の授業で取り扱うことは不可能なことである。限られた時間の中で、いかに効率的にまた、効果的に学習、習得していくためには教師がどのように手助けをしていけばよいかが今後の課題である。本稿では、中学校での発音指導が教科上でどのように扱われているかを把握することを目的として進めてきたが、まだ、曖昧なところが多く、更に調査を進めていく必要がある。今後は、これらの調査をもとに実際の授業の現場でどのように音声指導を進めていけばよいのかを実例を用いて考えていきたい。

参考文献

文部科学省(1998) 『中学校学習指導要領』
東京書籍株式会社(2006) 『*NEW HORIZON English Course 1*』, 東京：東京書籍
東京書籍株式会社(2006) 『*NEW HORIZON English Course 2*』, 東京：東京書籍
東京書籍株式会社(2006) 『*NEW HORIZON English Course 3*』, 東京：東京書籍
竹林滋(1996) 『英語音声学』, 東京：研究社
竹林滋(1998) 『英語音声学入門』, 東京：大修館書店

付録

NEW HORIZON 中1

Unit2

big, it	[i]	meet, Green	[i：]
school, too	[u：]	good	[u]

six, is	[i]	ten	[e]		
Unit3					
have, Ann	[æ]	not, want	[ɑ]		
Unit4					
very, have	[v]	but	[b]		
how, now	[au]	know	[ou]		
thank, thirteen	[θ]	this, that	[ð]		
Unit5					
go, no	[ou]	do	[u :]		
right, rice	[r]	like, large	[l]		
Unit6					
sister	[si]	see	[si :]	she	[ʃi :]
Unit7					
who	[h]	what, which	[hw]		
each, read	[i :]	weather	[e]		
Unit8					
cap, cat	[æ]	under, lunch	[ʌ]		
mine, nice	[ai]	minute	[i]		
Unit9					
snow, know	[ou]	walk, talk	[ɔ :]		
look ,cook	[u]	afternoon	[u :]		
fast, five	[f]	very, move	[v]		
Unit10					
can	[n]	jam	[m]	long	[ŋ]
those, phone	[ou]	whose	[u :]		
first, fired	[ə : r]	car, park	[ɑ : r]		
Unit11					

dear	[iər]	chair	[eər]
got, lot	[ɑ]	come, month	[ʌ]

NEW HORIZON 中2

Unit1

gave, came	[ei]	have	[æ]
brought, right, night	[発音しない]		
bought	[ɔ:]	- boat	[ou]

Unit2

abroad	[ɔ:]	road, boat	[ou]
tall, call, small	[ɔ:]	so, go	[ou]
letter	[e]	- later	[ei]

Unit3

surf, purpose	[ə:r]	park, hard	[ɑ:r]
sound, around	[au]	could	[u]
sick, sit, sister	[si]		
song, long	[ŋ]	ton	[n]

Let's read1

eat	[i:]	- it	[i]
say, may	[ei]	says	[e]
money	[ʌ]	both	[ou]
fire, festival	[f]	host, hear	[h]

Unit4

will	[i]	- well	[e]
thing	[θ]	- sing	[s]

Unit 5

wrong	[r]	-	long	[l]			
month, mouth	[θ]		class	[s]			
church, catch	[tʃ]		Christmas	[k]			
said	[e]	-	sad	[æ]			
right	[r]	-	light	[l]			

Let's read2

heard	[ə : r]	-	hard	[ɑ : r]

Unit7

than	[æ]	-	then	[e]

Let's read3

hole	[ou]	-	hall	[ɔ :]			
stone	[ou]	-	call, fall	[ɔ :]			
fill	[i]	-	feel	[i :]	-	fell	[e]
young, truck, Monday	[ʌ]						
singer	[ŋ]		stronger, longer	[ŋg]			

NEW HORIZON 中 3

Unit1

written, wrong	[r]		water	[w]
called	[ɔ :]	-	cold	[ou]

Unit2

concert, came	[k]		city, cereal	[s]
fan	[æ]	-	fun	[ʌ]

Unit3

foster	[ɔ :]		hope	[ou]		
fun, up	[ʌ]		put	[u]		
Let's read1						
bomb, know, right	[発音しない]					
burn	[ə : r]	-	born	[ɔ : r]		
dead	[e]		weak	[i :]	break	[ei]
rise	[z]	-	rice	[s]		
Unit4						
great	[ei]		beach, read	[i :]		
track	[æ]	-	truck	[ʌ]		
Unit5						
mean, sweet, people	[i :]					
seat	[i :]	-	sit	[i]		
Unit6						
report, forty	[ɔ : r]		world	[ə : r]		
she	[ʃi :]		sea, see	[si :]		
Let's read3						
sat	[t]	-	sad	[d]		
won't	[ou]	-	want	[ɑ]		
enough, laugh	[f]		tightly	[発音しない]		
first, hurt, word	[ə : r]					

(岩手大学大学院教育学研究科教科教育専攻英語教育専修)